

# 令和8年飯田市議会第1回定例会 一般質問通告表

令和8年3月5日、6日

No.	氏名	項目・要旨
1	大平 雲龍 (会派きぼう) 【 40 分 】	<p>1 スタートアップ支援施策の進捗及び実効性について</p> <p>(1) スタートアップ支援施策のその後の検討状況は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 新たに検討開始又は着手した施策は</li> <li>② 改善・見直しを実施又は予定する制度は</li> <li>③ 今後の施策の方向性についての考えは</li> </ul> <p>(2) 本市における助成・補助制度の整備状況は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① スタートアップ向けの助成・補助制度の現状はどうか</li> <li>② 過去3年間の実績はどうか</li> <li>③ これまでの実績をどのように分析しているか</li> </ul> <p>(3) スタートアップする市民に対する助成制度は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 市民のスタートアップに対して政策上どのように位置付けているか</li> <li>② 市民向けの直接的な助成制度は</li> <li>③ 今後さらに拡充する必要性があるか</li> </ul> <p>2 空き家活用支援の拡充について</p> <p>(1) 空き家の事業への活用促進は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 事業用途として活用された実績はどうか</li> <li>② 活用件数の目標は</li> <li>③ 空き家取得時の仲介手数料補助や改修費補助などの初期負担軽減を目的とした支援の拡充を具体的に検討する考えは</li> <li>④ スタートアップ支援施策と連動した空き家活用支援制度を創設する考えは</li> </ul> <p>(2) 他自治体の空き家対策事例を参考にした取組は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 三重県伊賀市のような空き家取得・改修支援制度を先進事例としてどのように認識しているか</li> <li>② 他自治体の先進事例を踏まえ、本市において導入可能と考えられる制度は</li> </ul> <p>3 地域資源を活かしたスタートアップ促進と空き家活用の戦略的統合について</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	大 平 雲 龍 (会派きぼう) 【 40 分 】	<p>(1) 政策理念の明確化について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 本市において、市民によるスタートアップと地域資源活用を、人口減少下における持続可能な成長戦略と位置付ける考えは</li> <li>② 空き家対策について、「管理中心の対症療法」から「活用中心の地域価値創出型施策」へと軸足を移す考えは</li> </ul> <p>(2) 今後に向けた具体的な対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① スタートアップ支援および空き家活用支援を横断的に連携させた新規制度の創設又は既存制度の具体的な改善に着手する考えは</li> </ul>
2	長 谷 部 春 生 (会派きぼう) 【 40 分 】	<p>1 「リニアの整備効果を地域振興に活かすビジョン(案)」を具現化する「まちの未来図(案)たたき台」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「まちの未来図(案)たたき台」の目的は</li> <li>(2) 「まちの未来図(案)たたき台」の活用方法について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 飯田市ホームページにある「ご意見・ご提案投稿フォーム」からの投稿状況は</li> <li>② そのほかの意見・提案を聴く機会は <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 市民の声は</li> <li>イ 関係する団体などからの提案は</li> </ul> </li> <li>③ いただいた意見・提案をどう反映させるか</li> </ul> </li> </ul> <p>2 DX推進(情報発信の推進)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 飯田市公式LINEについて <ul style="list-style-type: none"> <li>① 公式LINEの目的は</li> <li>② 公式LINEで何ができるのか</li> <li>③ 登録者数や双方向の情報共有の状況は</li> <li>④ 利用者の声は</li> </ul> </li> <li>(2) 飯田市公開型GIS「いいだWebマップ」について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「いいだWebマップ」の目的は</li> <li>② どのような機能があって、何ができるのか</li> </ul> </li> </ul>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	長谷部春生 (会派きぼう) 【 40 分 】	③ 公式LINEなど他のシステムとの連携や今後のバージョンアップは
3	森本 紘司 (新政いいだ) 【 40 分 】	<p>1 これからの飯田市の学校教育のあり方について</p> <p>(1) 飯田学園構想について</p> <p>① 現在の成果と課題への評価は</p> <p>② 学園地域コーディネーターの現状と課題は</p> <p>③ 現状を踏まえ今後の進め方は</p> <p>(2) 小学1年生「25人学級」導入について</p> <p>① 本制度に該当する小学校数は</p> <p>② 学級再編により増加する学級数と必要となる教員数は</p> <p>ア 教員を増員する場合、確保の見通しは</p> <p>イ 導入に伴う市の財政負担は</p> <p>ウ 小学1年生「25人学級」導入への市の受け止めは</p> <p>(3) 小1プロブレムについて</p> <p>① 市の小1プロブレムへの現状認識は</p> <p>② 未然防止及び早期対応のための具体的取組は</p> <p>(4) 「飯田市これからの学校のあり方審議会」から出される2次答申を踏まえた2次方針について</p> <p>① 審議会における議論の状況は</p> <p>② 市長から学校の配置・枠組みの方針を示す考えは</p> <p>(5) 小学校の再編で利用しなくなる施設の利活用について</p> <p>① 再編の検討と並行して、利用しなくなった施設の利活用を計画的に検討する考えは</p> <p>② 地域活性化の視点から、民間活力の導入や地域主体による活用を進める考えは</p>
4	古川 仁 (日本共産党) 【 40 分 】	<p>1 地域自治について</p> <p>(1) 自治運営の基本である「自治基本条例」について</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	古 川 仁 (日本共産党) 【 40 分 】	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 平成16年市議会主導で市民と行政と議会による「わがまちの憲法を考える市民会議」を立ち上げ三者の総意で制定したが市の認識は</li> <li>② 自治基本条例について一昨年、条例制定までの経過等、学び直しをしたが、その後の状況は</li> <li>③ 自治基本条例に対する職員の理解は</li> <li>④ 条例では「市民は、まちづくりの主体」とあるが、市民だけでは、解決できない課題があると考えerがどうか <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 令和8年度予算編成の基本方針のなかで、いいだ未来デザイン2028後期計画の基本目標1「市民が将来にわたり地域に誇りと愛着を持てるまちをつくる」では、「住民参加の促進と協力体制の構築」として『組合加入・未加入の「分断」を緩和』とあるが具体策は</li> </ul> </li> <li>⑤ 自治基本条例の検証・見直しは</li> </ul>
5	宮 脇 邦 彦 (公明党) 【 40 分 】	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 多様な世代による地域自治の推進について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 協同労働のしくみを活用した地域活性化について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 労働者協同組合法の概要と当市の受け止めは</li> <li>② 協同労働のしくみを、個人及び団体等へ理解していただくための案内や周知は</li> <li>③ 長野県との相談体制や連携は</li> <li>④ 地域人材の育成という観点で、「みらい創造教育」を横ぐし機能とするなど、その可能性をどう考えるか</li> <li>⑤ 協同労働を地域活性化へ活かすために、行政経験も豊富な市の職員の力を活用する考えは</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>2 行政サービスの更なるオンライン化について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 市民の困りごとへDXを活用する取組について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 飯田市行政事務DX推進方針の取組の成果及び評価と現状の課題は</li> <li>② 令和8年度以降の飯田市行政事務DX推進について、どのように進めて行くか、その方向性は</li> <li>③ 飯田市における、粗大ごみの処理手続き（申請）方法は</li> <li>④ 粗大ごみ処理へマイナポータル「ぴったりサービス」を活用する考えは</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
6	小 平 彰 (新政いいだ) 【 40 分 】	<p>1 人口減少時代の対応について</p> <p>(1) 長野県が公表した毎月人口異動調査でみる飯田市の状況は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 社会増減の推移はどのようになっているか</li> <li>② その要因をどのように分析しているか</li> <li>③ 今後の人口増減の見通しと対策は</li> </ul> <p>(2) 人口減少時代に交流人口・関係人口の必要性をどう考えるか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 交流人口の推移はどのようになっているか</li> <li>② 関係人口創出に向けてどのような取組をしているか</li> <li>③ 品川区・渋谷区との交流事業の考えは <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 現在及び今後の取組は</li> <li>イ 交流の窓口をどう考えるか</li> <li>ウ 森林資源を活用した交流の考えは</li> </ul> </li> </ul> <p>(3) リニアの整備効果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① リニア駅設置自治体との交流は</li> <li>② 開業時期の明確化及び早期開業に向けてどのように進めるか</li> </ul>
7	岡 村 弘 子 (公明党) 【 40 分 】	<p>1 認知症の人に寄り添った地域社会の構築について</p> <p>(1) 見守り・地域の支援体制づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 当市の若年性認知症含め認知症罹患数と行方不明者の搜索依頼件数の推移について</li> <li>② 当市のGPS機能付き端末利用補助事業はどのようなものか</li> <li>③ 認知症ヘルプマークの活用と認知症高齢者等個人賠償責任保険事業に対する当市の見解は</li> </ul> <p>(2) 認知症の本人・家族への支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「認知症になっても自分らしく生きる」とはどのようなことか</li> <li>② 認知症相談件数、相談内容はどのようなものがあるか</li> </ul>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	岡村 弘子 (公明党) 【 40 分 】	<p>③ それらの件数や内容から市として介護に対する認識は</p> <p>④ 支援が必要なケアラーを早期に発見し、支援につなげていく取組は</p> <p>2 介護人材について</p> <p>(1) 介護人材確保対策支援について</p> <p>① 介護職場の人員不足の状況は</p> <p>② 介護人材の外国人雇用の現状と市の見解は</p> <p>③ 外国人受け入れに対する市の支援は</p>
8	市瀬 芳明 (日本共産党) 【 40 分 】	<p>1 学園構想におけるみらい創造科の実施体制について</p> <p>(1) みらい創造科の進捗状況と学力の保障について</p> <p>① みらい創造科は、教育課程特例校の指定を受けず、生活科・総合的な学習の時間等の枠内で実施するのか、「教科として特設」し、教育課程特例校の指定を受けるのか</p> <p>② 国語・算数・英語など必履修教科の学力保障はどのように担保されるか</p> <p>(2) 構想の内容と実施体制について</p> <p>① 9つの学園ごと、9年間のカリキュラムはどの段階まで策定されているか</p> <p>② カリキュラムは保護者に分かる形で説明されるか</p> <p>③ 小規模校・複式学級を抱える学園において実施上の課題は</p> <p>④ 教員の受け止めと研修の実施状況はどうか</p> <p>⑤ 学園地域コーディネーターの役割はどうなっていくか</p> <p>2 学校運営協議会と学校づくりにおける児童生徒の参画について</p> <p>(1) 現状について</p> <p>① 現在の学校運営協議会の実態と保護者との関係性はどうか</p> <p>② 飯田市内の学校運営協議会において、児童生徒が構成員又はオブザーバーとして参加している事例は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	市瀬 芳明 (日本共産党) 【 40 分 】	<p>③ 他市町村を含め、児童生徒の意見が学校運営に反映された事例があるとすれば、その仕組みは制度として確立しているか</p> <p>(2) 今後の方針について</p> <p>① 子どもの権利条約第12条及びこども基本法第11条の趣旨を踏まえ、学校づくりに児童生徒の参画を位置付ける考えは</p> <p>② 児童生徒にとって、「通いたい学園」にするため、児童生徒が学校づくりに提案を行う機会を設ける考えは</p>
9	福澤 克憲 (会派きぼう) 【 40 分 】	<p>1 国の地方財政計画（地方財政対策）、R7年度補正予算（第1号）を受けての飯田市予算の考え方について</p> <p>(1) 自治体規模（人口・面積等）等から考える通常の前年度予算規模（特殊事情を除いた前年度予算規模）の考え方は</p> <p>(2) 緊急防災・減災事業費等の拡充・延長（R12年度まで）を受けての考え方は</p> <p>(3) 今後の大規模事業の見通し（小中学校体育館空調設備の設置、新文化会館建設事業、リニア駅周辺整備事業等）からの長期財政見通しの修正の考え方は</p> <p>(4) R8年度予算編成においての実質公債費比率のR7・8年度（単年度）見込み、今後のピーク年度の見込みは</p> <p>(5) ふるさと住民登録制度の推進に係る特別交付税措置の創設について</p> <p>① 総務省が補正予算で行った「ふるさと住民登録制度モデル事業」をどう受け止めたか</p> <p>② 飯田市としての考え方は</p> <p>(6) 普通交付税の基準財政需要額に臨時費目として創設される「地域未来基金費（仮称）」について</p> <p>① 飯田市としての産業クラスターの考え方は</p> <p>② 県との連携の考え方は</p> <p>(7) 過去最大の予算規模の執行について</p> <p>① R8年度の業務量に対しての人員配置の状況は</p> <p>② 事業者の状況は</p> <p>(8) 今後の方向性は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
10	正 木 利 幸 ( 新 政 い い だ ) 【 40 分 】	<p>1 中学校部活動と教育について</p> <p>(1) 部活動を地域展開することになった理由は</p> <p>(2) 移行期間を過ぎると地域クラブと教育委員会との関わりはどのようになっていくか</p> <p>(3) これまで中学校で行われていた部活動の教育としての意義は</p> <p>(4) 地域展開するにあたり課題をどのように認識しているか</p> <p>(5) 指導者の確保はどのように行うか</p> <p>(6) 指導者の質の向上に向けて、どのような取組を行うか</p> <p>(7) 教員が指導者になることは可能か</p> <p>(8) 中学校教育において、部活動の教育的側面を失うことによる代替策をどのように考えるか</p>
11	小 林 真 一 ( 公 明 党 ) 【 40 分 】	<p>1 飯田市の人口ビジョンにある人口減少のカーブをゆるやかにしていくために</p> <p>(1) いいだ未来デザイン2028において策定している人口ビジョンと現状をどのようにみているか</p> <p>① 人口減少への対応として、これまでの取組は</p> <p>② 人口ビジョン策定以降において、人口減少に歯止めがかからない現状の分析と課題をどう捉えているか</p> <p>③ 人口減少に対して、今後の施策における取組をどう考えるか</p> <p>ア 来年度の課題への対応は</p> <p>イ 10年先を見越した中長期的な視点での課題への対応は</p> <p>(2) 長野県が公表した2025年中の毎月人口異動調査をどのように分析したか</p> <p>① 自然増減数については</p> <p>② 社会増減数については</p> <p>(3) 若者に対する地元回帰への取組は</p> <p>① 地元企業をはじめとした働く場等をどのように周知しているか</p> <p>② 地元企業を高校生から知り、つながるための取組の現状と課題は</p>

No.	氏名	項目・要旨
	小林 真一 (公明党) 【 40 分 】	<p>③ ここ数年の回帰率の傾向は</p> <p>④ 若者の地元回帰への考え方や視点等のデータの蓄積が更に必要と考えるがどうか</p>
12	関島 百合 (会派きぼう) 【 40 分 】	<p>1 遊休農地への対応について</p> <p>(1) 遊休農地について</p> <p>① 遊休農地の把握の実態と、遊休農地の再生は</p> <p>② 遊休農地の解消に向けた各機関との連携は取れているか</p> <p>(2) 農地法の緩和により以前より就農がしやすくなっているが、市は新規就農希望者にどのような支援を行っているか</p> <p>(3) 「農ある暮らし」を気楽に始めたいと考える市民への対応は</p> <p>(4) 就農を目指す移住希望者に飯田市を選んでもらうための取組は</p> <p>2 みやまし農産物認証（飯田市環境に配慮した農産物地域相互認証制度）について</p> <p>(1) 現状は</p> <p>① 認証を取得した農家の数は</p> <p>② 品目と流通は</p> <p>③ 給食への導入と、食育への工夫は</p> <p>(2) 新たな販路への考えは</p> <p>(3) 市民への認知度をさらに高めるための方策が必要と考えるがどうか</p> <p>(4) 近隣町村との連携をどう考えるか</p>
13	松岡 秀治 (会派きぼう) 【 30 分 】	<p>1 部活動の地域展開について</p> <p>(1) 部活動の意義と役割をどう考えるか</p> <p>(2) 現在部活動に参加している生徒と参加していない生徒の数の把握は</p> <p>(3) 中学校の教職員が部活動の顧問を務めることについて</p> <p>① 教職員が部活動を指導している割合は</p> <p>② 部活動が負担と考える教職員の割合は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	松岡 秀治 (会派きぼう) 【 30 分 】	<p>(4) 休日における部活動の地域展開について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 完全移行への進捗状況は</li> <li>② 生徒にどのような影響があると考えるか</li> <li>③ 地域性がある中、部活動の地域展開について最終的な判断は誰が行うのか</li> </ul> <p>(5) 平日における部活動の地域展開について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 現在の状況は</li> <li>② 平日も含め部活動を地域クラブ活動へ完全に移行した場合、生徒にどのような影響があると考えるか</li> </ul>
14	遠山 雄 (会派きぼう) 【 40 分 】	<p>1 新型コロナウイルス感染症定期予防接種について (mRNAワクチン、レプリコンワクチン)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 令和7年度の定期接種者数は</li> <li>(2) 接種後に体調不良、副反応等の市への相談はどうか</li> <li>(3) 国は「コロナワクチン接種による死亡の重大な懸念が認められていない」としているが、市の状況はどうか</li> <li>(4) 市のホームページへのコロナワクチン接種のデメリットの記載はどうか</li> <li>(5) コロナワクチン接種の目的は何か</li> <li>(6) コロナワクチンの令和7年度定期予防接種以降の市の超過死亡数の推移と健康被害救済制度の申請状況は</li> </ul> <p>2 オーガニックビレッジ宣言について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) オーガニックビレッジ宣言をした理由は</li> <li>(2) 食の安全、健康への意識は</li> </ul> <p>3 環境文化都市の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) FIT法の制度が大幅な見直しや廃止の可能性があるが、市としてどう考えるか</li> </ul>
15	野崎 直仁 (無会派) 【 40 分 】	<p>1 大学連携と学輪 I I D A について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 信州大学とのグリーン水素での連携について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 国の光触媒の社会実装ロードマップでは太陽光変換効率が10%となる見通しの2035年を目処に実証試験が始まるように描かれているが、</li> </ul> </li> </ul>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	野 崎 直 仁 ( 無 会 派 ) 【 40 分 】	<p>ア 今の変換効率は</p> <p>イ ロードマップよりも10年近く早いこのタイミングで、ここ飯田で実証試験を行うことの意義は</p> <p>ウ 今このタイミングで水素コンソーシアムを組織することは時期尚早ではないか</p> <p>② 信州大学の資料では太陽光変換効率5%で採算が取れるとの見通しのようだが、</p> <p>ア ロードマップの10%との整合性はどうか</p> <p>イ 実際の製造コストの試算はできているか</p> <p>ウ 今回の実証試験からどの程度の水素が得られ、具体的に何に使うか</p> <p>(2) 学輪 I I D A の現状とこれからについて</p> <p>① 学輪 I I D A は大きなコンセプトを『21世紀型の新しいアカデミーの機能や場をつくる』とし、モデル的な研究や取組を地域（産業界・教育界・住民・行政等）とともに進めていくものとするものがある。</p> <p>ア 行政との取組にはどのようなものがあるか</p> <p>イ 産業界との取組は</p> <p>ウ 市民への成果の還元はなされているか</p> <p>② 急激な人口減少に見舞われている飯田市において、持続可能なまちづくりの議論や活動を学輪 I I D A の場で行うことは出来ないかと考える</p> <p>ア 飯田市としての課題を提示し解決策を議論してもらうことは出来ないか</p> <p>イ 中部大学の G I S （地理情報システム）を活用した取組は行政との親和性が非常に高く、都市計画やまちづくりに活かしていかないと考えるがどうか</p> <p>(3) 大学連携コーディネーターについて</p> <p>① 大学連携コーディネーターが大学の先生との連携を強化し、飯田市の課題解決に取り組んでほしいか</p>